

第**175**期 株主通信

2021年4月1日

2022年3月31日



Contents	株主の皆さまへ	01
	連結業績ハイライト	01
	主要連結財務データ	02
	セグメント別業績	03
	TOPICS	05
	連結財務諸表	09
	会社の概況／株式情報	10

株主の皆さまへ

ごあいさつ

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

この度の新型コロナウイルス感染症の影響を受けられた皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

当連結会計年度においては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大と縮小、また、それに伴う活動制限の強化と緩和が繰り返され、先行きの不透明な状況が続きました。2年以上に及ぶコロナ禍の影響は色濃く、物品の需給アンバランス化、物流のひっ迫、これらに伴う物価の上昇が生じています。さらに、東欧の地政学的リスクの高まりもあり、当社グループを取り巻く環境は一層厳しさを増しております。

このような環境のもと、当社グループは、持続的な経営体制・環境作りを取組むとともに、高品質な製品を安定的に供給することにより社会へと貢献し、さらなる成長と企業価値の向上に取組んでまいります。

株主の皆さまにおかれましては、引き続きご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和4年6月

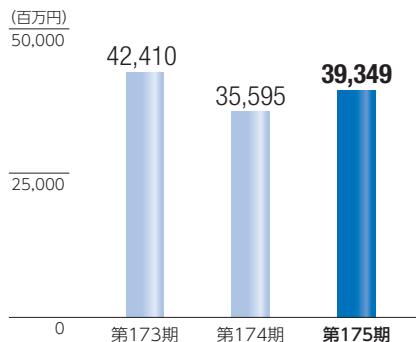


代表取締役社長

河村 桂作

連結業績ハイライト

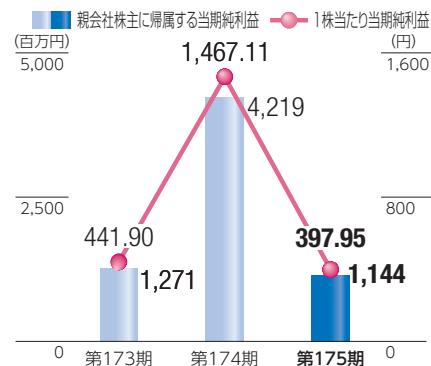
売上高



経常利益



親会社株主に帰属する当期純利益/1株当たり当期純利益



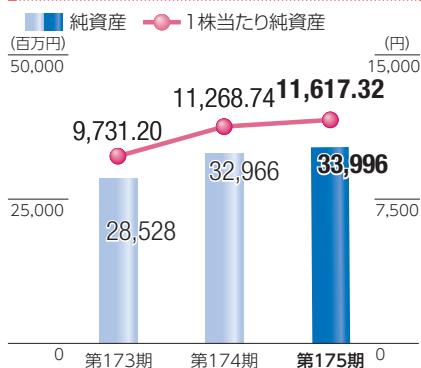
主要連結財務データ

項目		期別	第173期 (2019.4.1~2020.3.31)	第174期 (2020.4.1~2021.3.31)	第175期 (2021.4.1~2022.3.31)
売上高	(百万円)		42,410	35,595	39,349
経常利益	(百万円)		1,733	842	1,776
親会社株主に帰属する 当期純利益	(百万円)		1,271	4,219	1,144
一株当たり	当期純利益 (円)		441.90	1,467.11	397.95
	純資産 (円)		9,731.20	11,268.74	11,617.32
総資産	(百万円)		67,652	69,410	68,417
純資産	(百万円)		28,528	32,966	33,996

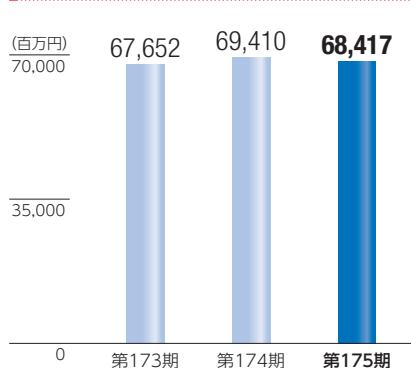
当連結会計年度における当社グループの業績は、未だコロナ禍の影響はあるものの、活動制限の緩和及び健康志向の高まりを背景に増収増益となりました。

前連結会計年度における親会社株主に帰属する当期純利益は、当社所有不動産（東京都足立区）の一部譲渡による固定資産売却益を計上し、大幅な増益となりました。

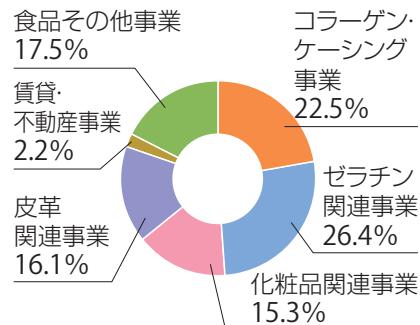
純資産／1株当たり純資産



総資産



セグメント別売上高(連結)



セグメント別業績

コラーゲン・ケーシング事業

売上高

8,879百万円

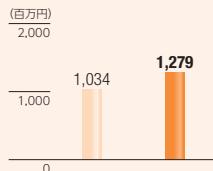
(611百万円増、
前期比 107.4%)



営業利益

1,279百万円

(244百万円増、
前期比 123.6%)



コロナ禍のイベント自粛の影響は残るものの、積極的な営業活動に注力し、売上を伸ばしております。現在取組んでいるニッピーコラーゲン・ケーシングのプロモーション企画では、「ニッピーブランド」の認知度向上を目的に一般消費者を対象とした広報活動を推進しております。

他の人々と物理的な距離をとることで感染防止を実現しつつ広い空間で積極的に身体を動かして楽しめることから、コロナ禍において爆発的に流行しているソロキャンプを主なターゲットに新たな商品を投入するなど、取引先と協力した商品開発と提案型の営業活動に取り組んでおります。



ゼラチン関連事業

売上高

10,385百万円

(1,266百万円増、
前期比 113.9%)



営業利益

566百万円

(293百万円増、
前期比 207.1%)



ゼラチンは、コロナ禍においても菓子やカプセル用途の需要は安定しており、惣菜用途も活動制限の緩和に伴って需要が回復し増収となりました。ペプチドは、国内インパウンド需要激減の影響はあるものの、コロナ禍の健康志向増大を背景に健康食品用途は堅調に推移しました。輸出版売は、北米への出荷が増加しました。利益面については、原料価格の高騰のため苦戦しましたが、前期に比べて改善しました。

同部門では、ハラール認証やコーシャ認証などを取得することで、新たな市場の開拓に注力してまいります。



化粧品関連事業

売上高

6,012百万円

(808百万円増、
前期比 115.5%)



営業利益

725百万円

(320百万円増、
前期比 179.2%)



化粧品は、コロナ禍の影響下においても前期並みに推移しました。健康食品は、健康志向の高まりと通信販売の優位性を背景に「ニッピーコラーゲン100」が引き続き好調に推移しました。

当社のグループ会社である株式会社ニッピーコラーゲン化粧品では、コラーゲン化粧品や健康食品を通信販売しています。同社は、通信販売サイトとは別に企業としての取組みを積極的に配信するため、コーポレートサイトをリニューアルしました。トップメッセージや同社の歴史、コラーゲンに込めた想いなど多くのコンテンツを掲載しています。

コーポレートサイト：<https://nip-col.co.jp>



皮革関連事業

売上高

6,324百万円

(1,149百万円増、
前期比 122.2%)



営業損失

133百万円

(前期は
営業損失64百万円)



皮革業界は、依然として厳しい状況下にあります。今の時代を生き残るために、固定観念にとらわれずに新たな取組みに挑戦してまいります。

当社のグループ会社である株式会社ニッピ・フジタでは、2021年秋、新しいコーポレートサイトを立ち上げました。

新サイトには、オンラインショップ機能が追加されています。世界中の有名タンナリーと直接取引を行っているという同社の強みを活かし、世界中から集めた多様なレザーを紹介するとともに、人気メーカーの皮革を1枚から販売しております。

コーポレートサイト：<https://nippi-fujita.com>



賃貸・不動産事業

売上高

856百万円

(123百万円増、
前期比 116.8%)



営業利益

650百万円

(107百万円、
前期比 119.8%)



東京都足立区の土地賃貸事業は、大規模商業施設、保育所、フットサルコート、駐車場、仮設学校用地として有効活用を図っています。大阪府大阪市の土地賃貸事業は、中央区心斎橋において商業施設用地として有効活用を図るほか、浪速区なんばのホテル及びオフィス棟建設工事は順調に進捗しており、新規事業に向けた開発計画を推進しています。

[ポンテグランデTOKYO] 下町や宿場町のイメージが強い千住地区において、年々地区開発が進み、暮らしやすい街・住みたい街へと変化しています。今後も本地区の認知度向上に努め、資産価値の増大に取組んでまいります。



食品その他事業

売上高

6,890百万円

(205百万円減、
前期比 97.1%)



営業利益

181百万円

(13百万円増、
前期比 108.0%)



有機殺物は、コンテナ不足による物流の滞りにより減収となりました。

イタリア輸入食材は、活動制限の緩和に伴い復調傾向がみられたものの、海外加工メーカーでのロックダウンによる操業停止の影響もあり減収となりました。

バイオ関連は、iMatrixシリーズの医療用販売は鈍化したものの、試薬用は国内外ともに堅調に推移しました。また、行動制限の緩和に伴いペットサプリメントなどの売上は回復傾向で推移しました。

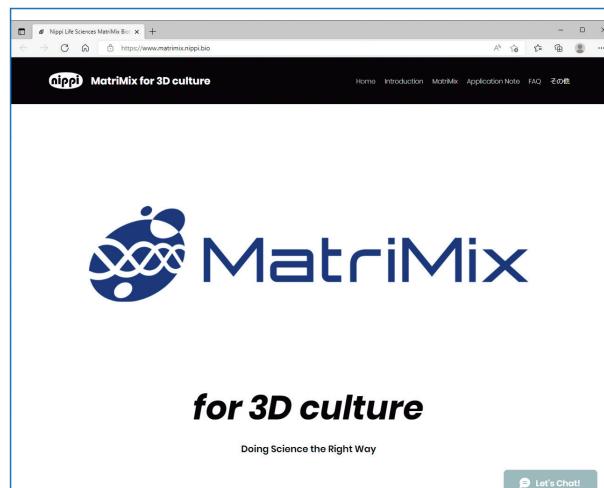
ケミカル関連は、リンカー製品が順調に推移しました。



新商品 三次元培養基材 MatriMix (511) 販売開始

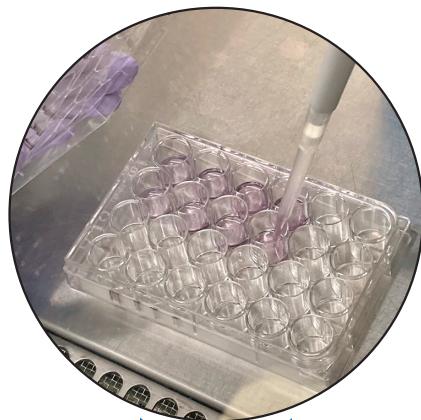
当社は、コラーゲンとラミニン断片及びヒアルロン酸を成分とした、新しい培養基材‘MatriMix (マトリックス)’を開発しました。

MatriMix (511) は、コラーゲンとラミニン511E8断片 (iMatrix-511)、及びヒアルロン酸を成分とする新たな三次元培養基材です。茨城県取手市にあるバイオマトリックス研究所で開発し、2021年10月から、バイオ・ケミカル事業部で販売を開始しています。また、MatriMixの専用サイトもオープンしました。(URL : <https://matrimix.nippi.bio>)



近年バイオメディカル分野では「三次元培養」が注目されています。

一般的に、ヒトや動物の身体から取り出した細胞は、培養皿で二次元（平面）的に培養されます。しかし、二次元培養では、身体の中で本来持っている細胞の性質（増え方や形、代謝など）が変わり、正しく実験・評価できない可能性が問題視されています。その主な原因として、身体の中では元々細胞が三次元的に配置して相互に作用し合っているにも関わらず、二次元培養では細胞を無理に平面環境に置いていることがあげられます。これは、身体の中の細胞が存在する本来の細胞外環境を培養皿で模倣しづらいためです。



MatriMix

三次元培養イメージ



立体的に培養される

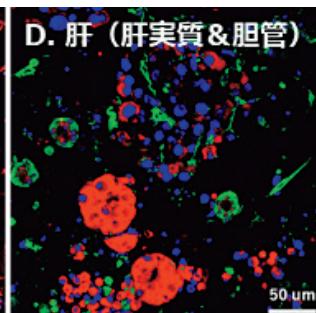
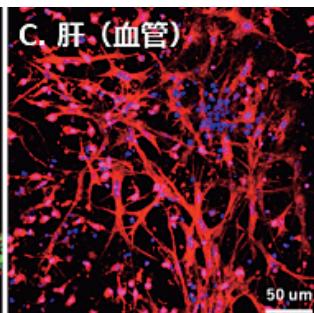
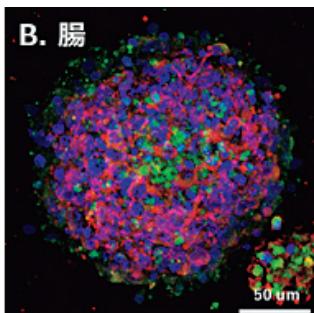
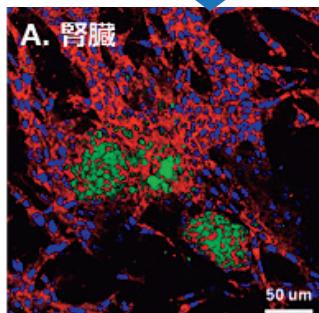
従来品

二次元培養イメージ



平面的に培養される

MatriMixを使うと、本来の細胞外環境に近い、様々な細胞にとって好ましい環境を作り出すことができ、ミニチュアの臓器（オルガノイド）に分化させることができます



▲ MatriMix使用例：マウスの様々な組織から採取した細胞をMatriMixで培養した後、免疫染色した画像

MatriMixシリーズは、コラーゲンやラミニンなどの種類や組み合わせをカスタマイズして、立体的に細胞を培養することで、様々な細胞をより好ましい状態へと導くことを目指して開発しました。国産かつ安定供給可能な三次元培養基材が欲しいというお客様からの声を糧に、ラインナップ拡充に取り組んでいます。

三次元培養技術は、がんや各種臓器における疾患のメカニズム分析や創薬研究をはじめ、化粧品開発などへの用途が見込まれ、今後も着実に伸長するものと想定しております。当社は、本製品を海外ユーザーに向けて積極的に提案するとともに、グローバル社会の中で同分野の発展に貢献してまいります。

TOPICS

各種認証取得のお知らせ

長引くコロナ禍をきっかけに、自身の健康への関心が高まっています。このような環境のもと、当社ゼラチン事業部は、コラーゲンペプチドへの潜在需要を顕在化すべく、また、お客様の多種多様なニーズにお応えするために、いくつかの認証制度に登録する取組みを推進しています。

ハラール認証・コーシャ認証

イスラム教やユダヤ教では、それぞれの教徒が食べてもよい食品、食べてはいけない食品などが定められております。

対象となる商品・サービスがイスラム法に則って生産・提供されたものであることをハラール認証機関が監査し、一定の基準を満たしていると認めた食品はハラールフードといえます。また、ユダヤ教徒が食べてもよいとされる「清浄な食品」のことをコーシャフードと呼び、コーシャ認証が必要となります。

アンチ・ドーピングインフォームド原材料認証

英国LGC社が運営するアンチ・ドーピング認証プログラムです。

世界アンチ・ドーピング機構 (WADA) の定める禁止表国際基準に基づき、製品を分析・検査・試験しているスポーツ栄養品質管理のグローバルスタンダードです。

当社は、これら認証を取得することで、様々な分野・立場の消費者のニーズをサポートしてまいります。

<本件に関する問合せ先>
株式会社ニッピ
ゼラチン事業部 インサイドセールス担当宛
TEL : 03-3888-8991 FAX : 03-3888-9143
Mail : customerjourney@nippi-inc.co.jp

● ハラール認証



証書発行元 : 一般社団法人Japan Halal Foundation
認証取得施設 : 富士工場CQT棟*
対象製品 : Collagenomics (TFF-01、GFF-01)、
マリンコラーゲンペプチド (CQT-F02)、
スタンダード品 (CQT-F11)

● コーシャ認証



証書発行元 : Japan Kosher Service
認証取得施設 : 富士工場CQT棟*
対象製品 : ニッピペプチドCQT-F12 (粉末品)
ニッピペプチドCQT-F12-G (顆粒品)

● アンチ・ドーピング インフォームド原材料認証



INGREDIENT
インフォームド原材料

証書発行元 : LGC Limited
認証取得施設 : 富士工場CQT棟*
対象製品 : Collagenomics GFF-01

※コラーゲンペプチド製造設備

株主優待制度

当社は、株主の皆さまの日頃のご支援に対する感謝のお礼といたしまして、株主優待制度を実施しております。

2022年3月31日現在の株主名簿に記載された、1単元（100株）以上を保有されている株主さまを対象として、ニッピグループの製品「ニッピコラーゲン100」を1箱贈呈しております。



（写真はイメージです）



ニッピコラーゲン100 1箱（110g×3袋）
販売元：株式会社ニッピコラーゲン化粧品

● 優待製品のご購入に関するお問合せ先

株式会社ニッピコラーゲン化粧品
TEL：0120-30-3232（フリーダイヤル）
専用サイト：<https://nip-col.jp>

株主優待 FAQ

Q 株主優待は、年に何回ありますか？
また、いつ頃届きますか？

A 年1回、7月上旬頃に発送を予定しております。
※海外への発送は行っておりません。転居された場合は、株式を管理されている口座管理機関（証券会社など）への住所変更の手続きをお願いいたします。

Q 最近、引越しをしました（引っ越します）。
株主優待の送り先を変更してください。

A 大変恐縮ではございますが、個人情報は全て株主様ご自身でのお手続きとなり、当社では個人情報の変更ができません。株式を管理されている口座管理機関（各取引証券会社、特別口座の場合はみずほ信託銀行）へお問合せ願います。

Q 自宅と異なる場所に転送してください。

A 大変恐縮ではございますが、当社ではご登録のご住所以外への発送はいたしかねます。次回以降、自宅と異なる場所への発送をご希望される場合は、**株式を管理されている口座管理機関（各取引証券会社、特別口座の場合はみずほ信託銀行）へお問合せ願います。**お手続きが完了いたしましたら、次回以降はご指定いただいた先へのお届けが可能です。

● 株主優待制度に関するお問合せ先

株式会社ニッピ 総務部
TEL：03-3888-6651
Mail：yutai@nippi-inc.co.jp

連結財務諸表

連結貸借対照表（要旨）

（単位：百万円）

科 目	第174期 (2021年3月31日現在)	第175期 (2022年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	25,526	25,005
固定資産	43,882	43,410
有形固定資産	39,257	39,184
無形固定資産	276	268
投資その他の資産	4,348	3,958
繰延資産	1	0
資産合計	69,410	68,417
負債の部		
流動負債	16,412	15,919
固定負債	20,031	18,501
負債合計	36,444	34,421
純資産の部		
株主資本	23,845	24,673
その他の包括利益累計額	8,564	8,738
非支配株主持分	556	583
純資産合計	32,966	33,996
負債及び純資産合計	69,410	68,417

連結損益計算書（要旨）

（単位：百万円）

科 目	第174期 (2020年4月1日から 2021年3月31日まで)	第175期 (2021年4月1日から 2022年3月31日まで)
売上高	35,595	39,349
売上原価	26,834	29,454
販売費及び一般管理費	7,886	8,135
営業利益	874	1,759
営業外収益	194	191
営業外費用	226	174
経常利益	842	1,776
特別利益	5,540	22
特別損失	376	121
税金等調整前当期純利益	6,007	1,677
当期純利益	4,231	1,169
親会社株主に帰属する当期純利益	4,219	1,144

連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位：百万円）

科 目	第174期 (2020年4月1日から 2021年3月31日まで)	第175期 (2021年4月1日から 2022年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,761	2,070
投資活動によるキャッシュ・フロー	3,297	△917
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,587	△2,132
現金及び現金同等物に係る換算差額	19	102
現金及び現金同等物の増・減(△)額	3,491	△878
現金及び現金同等物の期首残高	4,007	7,499
現金及び現金同等物の期末残高	7,499	6,621

会社の概況

(2022年3月31日現在)

■ 会社の概要

商号	株式会社ニッピ
設立年月日	1907年(明治40年)4月1日
資本金	4,404百万円
従業員数	602名(連結対象会社合計)
本社	東京都足立区千住緑町1-1-1
主な事業内容	コラーゲン・ケーシング、ゼラチン、その他コラーゲン関連商品の製造販売及び皮革関連製品等の販売
ホームページ	https://www.nippi-inc.co.jp
主要取引銀行	みずほ銀行 三菱UFJ銀行 三井住友銀行 みずほ信託銀行

(2022年6月29日現在)

■ 取締役及び監査役

代表取締役会長	伊藤隆男
代表取締役社長	河村桂作
常務取締役	小林祥彦
取締役	井上善之
取締役	塚田幸宏
取締役	深澤幸洋
取締役(社外)	伊藤裕子
常勤監査役	村上勝彦
常勤監査役	伊藤政人
監査役(社外)	吉田安
監査役(社外)	早山徹
	大倉喜彦

株式情報

(2022年3月31日現在)

■ 大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社リーガルコーポレーション	415	14.45
大成建設株式会社	222	7.74
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL	118	4.12
中央建物株式会社	116	4.05
東京建物株式会社	100	3.48
株式会社SBI証券	93	3.25
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	92	3.22
PHILLIP SECURITIES (HONG KONG) LIMITED	70	2.46
株式会社みずほ銀行	69	2.43
みずほ信託銀行株式会社	60	2.09

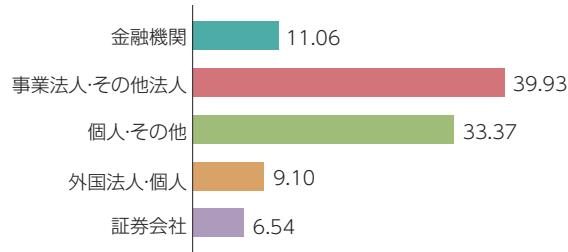
(注) 1. 千株未満は切り捨てて表示しております。

2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

■ 株式の状況

発行可能株式総数	11,550,000株
発行済株式の総数	2,876,055株
	(自己株式12,945株を除く)
株主総数	3,087名

所有者別持株比率(%)



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会 3月31日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日
配当金受領株主確定日	3月31日（中間配当を行う場合は9月30日）
1単元の株式数	100株
株主名簿管理人及び 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目3番3号 みずほ信託銀行株式会社
(郵便物送付先)	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	0120-288-324（フリーダイヤル）
公告方法	電子公告により当社ホームページに掲載 ただし、やむを得ない事由によって 電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載
上場証券取引所	東京証券取引所 スタンダード市場

【株式に関するお手続きについて】

1. 証券会社等に口座をお持ちの場合、原則として住所変更や買取請求などの株主様の各種お手続きは、ご利用の証券会社等を経由して行っていただくこととなりますので、証券会社等宛にご連絡をお願いいたします。
2. 証券会社等に口座をお持ちでない場合（特別口座の場合）、「みずほ信託銀行」本店・全国各支店でお取り扱いいたします。
3. 支払明細の発行に関するお手続きにつきましては、上記「郵便物送付先」宛にお問合せください。
4. 未払配当金のお支払につきましては、「みずほ信託銀行」本店・全国各支店にお問合せください。